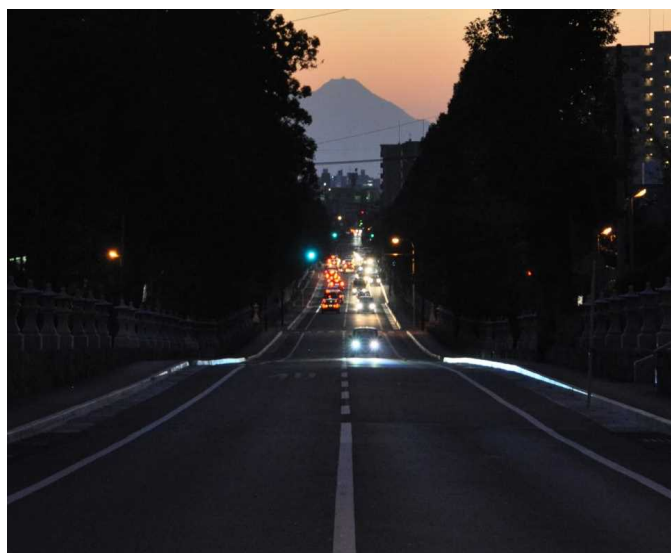


## 【4 熊本市】



健軍神社の鳥居から(参道越しに)

熊本市では、市の西側に広がる有明海の干潟をはじめ、熊本港、河内みかん畑、峠の茶屋公園、金峰山やその外輪山(二ノ岳・三ノ岳)、独鈷山、白川・緑川流域、JR 九州新幹線の熊本駅付近、JR 鹿児島本線／三角線の熊本駅～川尻駅付近、県庁通り、江津湖や健軍神社など、市内各地から有明海越しに“東面の雲仙岳”が眺望できます。幕末・明治の思想家・横井小楠が住まい、坂本龍馬とも語り合ったという“四時軒”からも、雲仙岳が眺望できます。市内の小学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

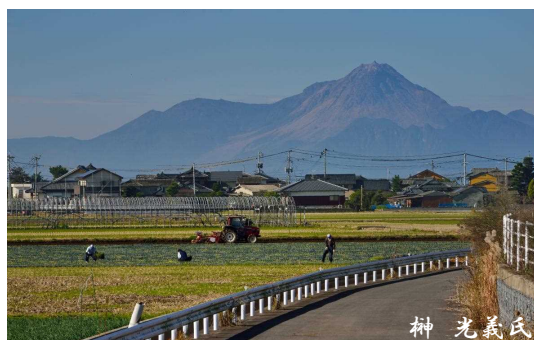
市内最古の健軍神社の鳥居からは、約 1.2km の参道(八丁馬場)の真正面に雲仙岳が眺望できます(↑)。参道は、真西ではなく雲仙岳の方角に伸びていることから、雲仙岳を見ながら建造されたものと推察され、古代の火の国(肥前国+肥後国)の国づくりにおいて、雲仙岳がランドマーク(目印)として重要視されていたと考えられます。

有明海の漁師さんは昔から、雲仙岳の山々の組み合わせを見て漁船の方角を把握したり、漁場の位置を記憶したりしていた、と言います。また現代、市内にお住まいの方々の中には、曇りの日の朝の出勤時、雲仙岳の雲のかかり具合を見て傘を持っていくか否かを判断する、という方がいたり、オフィス勤めで仕事に疲れた時、海岸へ行って夕日と雲仙岳の風景を眺め、癒されるという方がいたり、雲仙岳が日々の生活の中に溶け込んでいます。

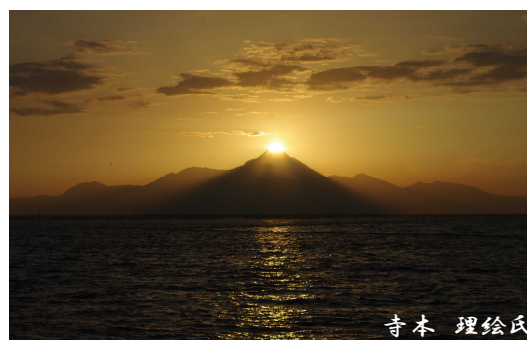
有明海の干潟は、全国一の規模を誇りますが、その干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を白川や緑川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。また、金峰山系をはじめ、熊本港や県庁通り、四時軒など、市内各地から阿蘇山・雲仙岳の両方を同時に眺望でき、両山の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、熊本市内を旅してみませんか？

●熊本市の観光情報はこちら ⇒ 熊本市観光政策課 <https://kumamoto-guide.jp/>



白川河口付近から



松尾町の海岸から